

19/2/4 河村たかし名古屋市長定例記者会見

名古屋市民オンブズマンによる文字起こし(名古屋城関連部分のみ)

河村:そのことはちょっと先ほど幹部会でもいいましたけれども、まあ本当に某重要な資料が出てきて、昭和23年度の、覚えていてちょうよ、みなさん、配るとまずいというのであれば23年にですね、某新聞社がアンケートをとってるんです。

昭和23年は僕の誕生日、生まれた年です、お城ができたとき34年ですから、お城ができる10年前ですね。だいたい名古屋の今も同じですよ。できるとだいたい10年ぐらい前から議論が始まったことになります。

10年前に名古屋のお城は、どうだと、木造がええか、近代建築、コンクリートがええかってアンケートをとってるんです。トップはなんと木造ですね、44.7%。これ。第2位が近代建築37.何パーセント。

でだいたい2割実はあの当時でも木造、びっくりしましたねこれ。

なんとなく、あるいは当時、皆さんの民主主義の力でいうコンクリート推進したというような気持ちでそうやって書いてあるとこあるんです。ね。だけどわしはおかしいなあ思っとなんてですよこれ。

23年生まれたときで、意識はまだなかったと思いますけど。

私も400年名古屋に住んどりますけど、70年、そういう気持ちになったことはほくないですからね。コンクリートのほうがええって。だからおかしいなっと思っとなんたら、実は違うですわこれ。その記事の一番最後に名古屋市の職員のコメントで、これね、部長さんの、当時の復興部長って書いてあります。どう書いてあるかっていうと、4000万だったと思いますけど、6000万だったか、4000万も使えば立派なコンクリート製のお城ができるというって書いてあるがもう。その記事のところに昭和23年。44.7%のアンケートについては、「もしできたら」と思ってる人が多いと。

だから確定的な気持ちはないような書いてありましたが、むちゃくちゃですわまあ本当に。ということで、ちょっと話が長くなりましたけれども、そういうやっぱ名古屋の市民のさっき文化庁にも行ってきましたけど、その話しを。大事にしたってちょうよと。ということです。

-----

このかけがえのない第一歩は名古屋城木造天守閣復元なんだけど、これはまだ第一歩ですこれは。

-----

記者:名古屋城なんですけど、解体先行と言うことを文化庁に提案していったと言うことなんですけど、

これ、これがもし順調に行った場合に、いつごろ早ければいつごろ解体になるんですか。

河村:秋以降じゃなかったかな。確か秋頃です。

記者:もともと、もとの予定でいうと。いわゆる復元の許可が下りた場合には9月というスケジュールもあったんですけど、それより

河村:それと同じだと思っておりますけど。

記者:同等ですか。

河村:同じだろう。たしか。同じです。その通りです。それでだいたい1週間くらいで、その業者さんに電話しましたら、準備してますけどって言ってましたけど。

上からこういうふうにはクレーンでばたつと倒さず、ちょっとわしも勉強せなあかんけど、専門じゃないもので申し訳ない。外していくらしいですわ。上から。だから下にダメージを与えない。最高の工法だと言ってましたけど。

記者:それはいわゆる切断して持っていくっていう

河村:まあそういうことです。

記者:そうすると石垣にダメージがない。

河村:それはないでしょう。

記者:あと解体期間中って、そこそこ本丸御殿と近いと思うんですけど、その入場に関してはどうなりそうですか

河村:それはまだちょっと私も、本丸御殿はええだね。そっちからやっ取るんだろう。北から。確か。ボランティア。

北から取るんだろ。あれ。

名古屋城:本丸は大丈夫。

記者:本丸の入場は継続するわけですか。

河村:と思いますけど。それよりこのままほかつといたほうが危ない。地震でいろんな影響で。本丸御殿はよっぽどええだろうと言ってましたけどね。僕が聞いた人は。小天守があるのならば

たつと倒れてきたとしても。だけどちーと周りの今の天守は入場禁止だけど、仮にほかっておくような状況になったとすると、やっぱり中入っていきますと売店があって、井戸もあるわね東側に。あそこのところも、ずっと入場禁止にせないかんのではないかといってましたけど。ある人が。

上から落ちてくるということですよ。ガラスが割れて落ちてきたり、瓦は1階ですけど、上は銅板ですけど、銅板だって危ないですよわねこれ。そういうことです。危ないですよって。

記者: すいません。解体後の天守ってどうしようかなっみたいなのは

河村: それはいろいろ勉強しております。

まあ5階ぐらい残したらどうかという人もいます。まあいろんな説が。また考えないと行けない。まあVRみたいな格好で残すというのはだいたいやること。これは決まっています。竹中さんの予算の中にも入っています。いくらかちょっと忘れちゃったけど。予算。

記者: 5階部分で、今の5層で7階の最上のところだけはなんか残すということか

河村: その昔の展望台の思い出るのが若干ありますんで。

それは決まったわけじゃない。それはどうかという。話はあると。

記者: 市長、工法についてなんですけど、1週間ぐらいで実現できるとおっしゃっていましたが、でも、また、文化庁に行かれる予定は

河村: それは僕は行こうと思っています。ええ。大至急。だから、取り壊し、現状どうかということ。申請。それにちゃんと宿題となっておる、その、取り壊しの資料つけて持って行くと。

記者: 確認なんですけども、5月の分審には、解体事業と並行して復元事業の許可も出されるということによろしかったでしょうか。

河村: いやいや解体だけです。解体だけ。

記者: 復元に関しては10月以降

河村: まあはようやるわねこれ。はようというか、石垣の調査やりますからそんなもん、あんまりそういう調査やるか、なんだかんだ言って言われるって言ったって、文化庁へ行く度に言ってますけれども、5年くらい前、今や行く人間で僕が一番古いんですよ正直言って。文化庁ももうほとんどかわりました。向こうも。名古屋市側も僕は一番古いです。すでに。

そんでそのときに技術提案交渉方式でやってると、いろんな話で、とにかく今じゃ、で、わかりましたとほんだらとにかく丁寧にことあるごとにという言い方じゃなかったけど、説明してください。説明してくださいね、って、やってみたら4-5年前から。これ。と言う話しですわ。

読売: 読売新聞ですが、5月の文化審議会に解体を諦めということですか。

河村: うん?

読売: 5月の文化審議会で復元の許可を得ることは諦めたのか

河村: 復元の方にせずに、そのという、まず解体の許可申請をする。ということ。

読売: 復元は5月の文化審議会には図られないことは市としてもそれはしょうがないことか

河村: しょうがないというか、とりあえずそれは僕がいつとるんじゃないですよ。  
石垣部会から推薦を受けたコンサルタントがそういつとるんですよ。

読売: そういうことというのは

河村: だからそういう方法がええと。

読売: 解体を先にやったらどうかと

河村: そうそう ということですよ。

解体を先にやれば、当然のことながら石垣も調査しやすいじゃないですか。

そんなことはあたりまえのこったわねこれ。ええ。しやすいように決定的だと思いますよ。もう何遍も言ってるけど文化庁にちゃんと言いましたからこれ。本当に延びると調査も中止になりますよって。危ないから。労働安全衛生法、懲役になりますので。刑事罰ですから。はっきりわかるとるでいかんですよ。IS 値 0.14 というのは。5月に入場禁止してるからそこまでやってる建物ですよ。

その54メートル下ですね、安全とね竹中工務店の従業員の方に調査してあたりまえだつて言えませんよ。やっぱりこれ、はっきりいってあります。文化庁に。これ。

本当ですよこれ。

地震なんて起こりやせんがやと思つとるからもうみんな。

地震なんか起こりやせん。ねえ。だけど震度6強の地震で倒壊する可能性までしか書いてないけど、ちゃんとある意味で震度6強の地震で倒壊する危険性が高いといつとるまで本当

は書かないかん。ちゃんと正式な文書でありますから。  
これは今のIS値0.14というやつ。そういう建物ですよ。これ。

記者:解体の許可申請は無事通るんでしょうか

河村:うん?

記者:解体の許可は下りるんでしょうか。

河村:それはおりるでしょう。これは。ほんなもん。ほれはおりるに決まっとるいうと怒るだろうけど、どこがいかなのですかこれ。本当に。何故いけないんですか。

毎日:関連ですが、毎日新聞の三上ですけど。文化庁から現天守の歴史的価値をしっかりと評価をしてください、みたいな宿題をもらったかと思うんですが、それはまとまったのですか?

河村:それはもうまとまって出してありますし、最後の部分は出したものの返事がないですけど。

さらにそれに加えて、僕はそのあれです、旭丘高校の取り壊しのこれ何かっていうと、ちょっと前言ったように文化庁の課長さんが言っとったけど、そのときに僕はそれは、歴史的価値というの50年たった建物で、

その当時の時代のシンボルとは書いてないけど、象徴というか建物については登録有形文化財になりますと。申請がいりますけどね。

そういう情報もあるんです。だから名古屋城もそういうことでしょうって。まあそうですと。という話しだったです。やっぱ向こう側からすると、登録申請すれば登録有形文化財になる。可能性というか、なる可能性のある建物を壊すということについて評価してくれということですよ。でしょうっていったらそうですと。言っていましたから。ちゃんと書いてありますよ。

旭丘高校のは、あれ昭和12年づくりだったと思う。13年かもわからんけど。

あれ50年以上たつとるんだ。旧制中学の、昔のフルでフルスペックで残つとるのはあれしてなかったんですよ。

あれは座り込みまでやって、裁判で訴えられて逮捕される寸前まで行きましたけど。

中へ入ってきたやつつまみ出すとか手でえーってやってやりました。これ。

でどうなったかいたら、取り壊されたじゃないですか。これ。

あれ、旧制一中の建物については、そのオリジナルなんですよ。あれ自体が。これが。名古屋城の天守というのは悪いですけど木造天守のこれ、それを模範にしたものなんですよ。

コピーといってフルコピーじゃないです。

7階の窓、ほれから内側は全然違います。

そういうものなんですよね。だから違うんだと。値打ち足るや。とそうこの前書いてきましたけど。

旭丘高校のやつは本物だった。でも壊す。

名古屋城は違うんですね。それと当時その後を書いてないけどその後にはわかったのはさっき言ったように、実は昭和 23 年にですよ、アンケートをとったら市民はですよ。焼け野原の私が生まれたまだ大変な貧しい時代に実は 2 割多くはですね。木造で復元したいとこたえとるんですよ。そういう建物だったわけです。これ。

そりゃ今日の幹部会で言ったけど、みんなで昭和 23 年の市民の願いを叶えるんだと。70 年たったけど。わしの周りではずっと同じです。そういう気持ちですよ。

そういう気持ちで、今のコンクリート天守を評価せないかん。あれは衝撃的だったんですね。じつは、23 年のアンケートでは

記者: すみません。先に天守を壊して、復元許可がもし出なかったら、天守閣がない期間が結構長くなる可能性があるじゃないですか。その辺のリスクはどう考えていますか。

河村: そんなことはありませんがね。

記者: ありえるでしょう

河村: なんでありえるのか。そんなこと。

記者: 復元の許可が出ないケースはあるのでは 壊してしまっっては

河村: そりゃ丁寧にやりますわね。こっちはこっちでそう言い趣旨で文化庁も言ってるけど、丁寧にやってきてですね

記者: これまで丁寧にやってきて、ちょっと

河村: いやいやそれは私が丁寧にやって、石垣部会にも非常に丁寧にやってきたからですよ。文化庁にも言いました。石垣部会にも僕が話しをしますよって。これは。

市民の願いというもの。

これが 1 年延びると 1 億かかると。

記者: そうすると、10 月の次の文化審議会で復元許可が必要になってくるんじゃないかなって思う

河村:それはそう。なんですか、速やかにやります。なるべく早くどんどんステップをお願いしていくと。ということですから。

記者:それ3月の復元検討委員会では、復元計画が諮られる予定はありますか。

河村:それは取り壊しの場合はいらないんです。復元検討委員会は。

記者:復元には

河村:だから今回は、天守の取り壊しだけですから

記者:10月には、の文審には図られる予定では

河村:まあ10月なのか、まあちょっと柔軟にやってもらうのかしりませんが、石垣の調査もやりまして。その間ね。ほれはなるべく早く次の段階に移っていかないかん。

記者:市長、あの大事なことなんですけど、今回は天守解体だけを出すという認識なんですか。

河村:まあそういうことです。

記者:昨年10月に出さなかった木造復元の計画案は、5月の文化審は目指さないということによろしいんですね。

河村:取り壊しを出すという

記者:わかっています

河村:あと石のことをことガタガタ言われると、そりゃ何を言っとるんだと

記者:やっぱ聞いている話と違いますので。

5月にも、両方目指していく

河村:それは文石協

副市長:3月に一応目指すはお願いはしています。全体の復元も。

3 月を復元検を目指してできればということで。

河村: できれば、できればだけど、それは文石協のコンサルのアドバイス。

副市長: 分離は分離としてやるんですが、復元の方も復元検討委員会が3月にありまして、それに出せたらとお願いをしています。はい。

5月にできればださしていただきたい。ということ

河村: 解体はとにかく

副市長: 解体は

河村: 解体は復元検討委員会はいらない

記者: 市長ですから5月の文化審で、もともとの計画木造復元計画を目指しているということを改めて説明すべきじゃないか。間違っていっちゃいます。

河村: いやそんなことあの常識じゃやらないですか。そんなもん。

そのもともと木造復元にしようというふうに民意と議会のそういう前提で予算通して、材木も半分以上切ってますね。やっとならで、それは当然ですよ。はい

記者: 5月の文化審で木造復元を目指すということでもいいんですか。

河村: いやいやそれは間違いです。

記者: 間違い、、、

河村: いや、そりゃ、目指すのは目指すというか、ちゃんと手続きをとる間違いなく取るのは天守のコンクリート天守のなんですか、解体申請と。ということで、

記者: 文化庁から戻ってこられて、市長室の前で会見されたときは「解体だけして、復元は当面出さないって話したと。

河村: 当面出さないとはいっていないそんなことは。



記者:それをちょっと市長

副市長:全体の方は全体の方で予定通り3月の検討はするが、市長はまだ

河村:めざしとるいったって、申請するかどうかの問題だでそれは、こちら側が目指してるのは確かですよそりゃ、そりゃやめたわけじゃないんですよ。

だけどちゃんと申請して申請書類をこうやってだすことについては書かなあかんでしょうちゃんと。

それは決まっとるのは、5月の審議会にコンクリート天守を解体することの許可をいただきたい。ということ。

記者:それはわかってるんですけど。切り離して元々の復元案があるじゃないですか。切り離す前のもの。それは3月復元検討委員会ならび5月の文化審に許可を得たいわけじゃないですか。

河村:気持ちはあるけど、当然ですけれども、だけどやっぱりそれはコンサルのアドバイスもあって、みんな顔も立てないかん。これ、顔も立てないかんもんで、まず取り壊しだけやろう。

記者:5月に許可がでないと、2012年末が非常に難しい気がするんですが、それで断念してよろしいですか。

河村:なに？

いやそういうやり方でいこうというのは文石協というか、石垣部会の提案による、そのアドバイスです。まず。それでやりましょうと。顔をたてとるわけですよこっちも丁寧に。

記者:すみません、今、副市長がおっしゃっているニュアンスと、市長がおっしゃってるニュアンスがちょっと違うようで

河村:一般的にはちがとらん、気持ちは変えとらんっていうことだろう申請を出すとは聞いておりませんよ、わし。

副市長:今のあれですと仮に5月の、3月の復元検、5月の文審で全体が仮に通らなくても、天守解体が先に認められれば、その全体のそのもう少しあとでも2022年に間に合うようは必ずしも5月の文審で認められなくても認められる、そういう可能性があるというという。

河村:それやコンクリート解体が

副市長:解体が5月で認められれば、当然その実施される期間がありますので。

記者:5月の文化審に復元の案を目指している、

副市長:全体でやろうとすると5月5月の文審で認められないと間に合わないんですけども、分割案が認められれば、もう先の文審でも、2022年に間に合う

記者:市長がおっしゃっているのは解体の申請だけをするとおっしゃっているんですよ。だけでいいんですか。

副市長:スケジュールだけの問題でいえば、5月に解体が認められれば、全体のその22年を目指しているものの、文審の許可ももう少し後でというのは事実です。

ただ一応建前上は今の今の現状でみますと、これまで目指してきた2022年のやつの全体を3月の復元検、5月の文審で提出を目指すというのは、やっぱり。それと並行して、その天守閣の天守閣先行解体を今回申し出ることにした。

記者:3月に検討委員会を経ないと、復元について5月の文化審議会にかけることはできないんですよね

副市長:全体です。全体を一括で通そうと思うとそうですけども。

記者:今分けようとしている、その復元と解体を復元の方も間に合ったからやっぱり3月と5月に出しますよなんていうことが手続き的にはできるのか。

副市長:一応まだ先に復元検がありますので、これは可能かと思います。

記者:もし3月の復元検で全体がOKだったらやはり予定通り行うということでもいいですか。

河村:それは石垣部会次第です。石垣部会がおっしゃるので、顔を立てて石垣部会のコンサルのいったアドバイスに従うということになると、まず天守解体だけ通しといて、それで石垣をその間に丁寧にやって、でやったら、石垣部会の方もわかっていただけるんじゃないか、もうわかっていただけるんじゃないかと。そういうことですね。

記者:そもそも復元検討委員会って3回かけてからみたいなお話だったですか。あれはどうなっているのか。

副市長:慣例です。それは

記者:3回とかいうのはもう1回検討してもらったら審議会通るのか

河村:それはありません。文化庁の方からも私たちは延ばすつもりはありませんと。早くこれは期限というのはないんですと。早い場合もあるし長くかかることもある場合もありますのではっきり言われてます。それは。

記者:まだ1回も諮ってもらってないんですね。

副市長:諮ってもらっていません

記者:わかりました

河村:そういうことです。それははっきり言われてます。金曜、あれですよ聞いたか、文化庁がはっきり「延ばすつもりはありません」と。期限というのはないんです。早い場合もあるし、遅れる場合もある。そういうことです。

記者:市長、5月には2つの案を検討して出すのか

河村:いや、今のところは提出するのは一応石垣のコンサルちゃんときちっとまず提出するのは、石垣だけ。お願いできればいいんじゃないのといっとるわけですよ。仮にその間石垣部会の方も、ものすごく丁寧に進めてますから今現状。

いっぱいいますけど、名古屋城ほど石垣を丁寧にやったのは初めてらしいですよこれ。

すごい丁寧な調査ですよ。石垣の専門家がいておられました。

そういうようなことで、これで十分だわということになれば、それはそれで、急遽やりますけれども、

記者:確認なんですけれども、じゃあ解体のやつを5月に出すのはもう決定事項ですか。

河村:まあそれはそう

記者:で、復元を一応姿勢としては5月を目指すものの、実質3月の復元検討委員会というのが一度その前にあるので、そこでもし出せなかった場合は、別の線で5月に復元を出すっていうのは諦めますっていうことでいいですか

河村:まあそういう感じでしょう。

石垣部会さんはOKとってきてちょうよって石垣部会さんは今んとはまあ「天守の解体は、文化庁がお決めになることです。」こういうふうに言っておられますので、文化庁はOKいやそれだけのことです。石垣部会のOKあればみんなOKになります。そういうことです。こういう事です。そりゃ自信もってやらないと。これなんか特に思いますよ。これ。4-5年かけてですね、丁寧な上にも丁寧にやってきたんだもん。文化庁に。これ。それで数代前のそのとき言いましたわ。名前はここで言った課長が「竹中案というのはいものすごい素晴らしい案ですね」って。そういつったんですよこれ。

記者:市長、解体もし認められた場合解体が進んで、進んだ場合にですね、まの一体の景観っていうか雰囲気もがらっと変わるので、天守がない状態になると思うんですけど。観光とかいろんなところに影響もあるような気もするんです。そのあたりはどういうふうに考えていますか。

河村:かえてですね。姫路城もあれテントかぶせて修理中はものすごい人来たっていわれておるでしょう。だから天守解体して中の石垣の中の構造というのはもう一生見れませんから。これは。これは。何人も。これ。まあ500年か1000年たったときにまたわかりませんが、法隆寺は1300年たってますので。だからそうすると、見に来る人もようけござると思いますよわしは。

記者:ではその例えば、天守解体後、例えば石垣の状態とか、ある程度その多少見られるように、

河村:僕はしようと思っておるけど、ちょっとそこは竹中さんにきかんと、実際の工事でじゃまになるといかんもんで、これちょっと確実じゃない。申し訳ない。わしのまあ思っておるところではできるんじゃないのと。

一遍見てみていあけどね。私も。天守が外した内側どうなってるか。ケーソンが入ってますんでそれと、内側は結構あのコンクリート造るとかいう。大分壊してますから石垣も、これは。新しいんですよ。中の石垣は。どこが。どうかその辺の所は一遍どうなってるか見てみてやあ、みえせんもんだから。

記者:天守を取り外して石垣の安全性の調査をされるということですか。

河村: そう

記者: そこでもし復元に耐えられないというような現状では耐えられないというような判断がでたらどうされますか

河村: そんなでんでしょう。

記者: 天守の耐震性の問題というのは今いろいろ説明いただいて理解できたんですけども。石垣も大分もろい状態であるんじゃないかというような指摘もありますけれども、市長の石垣に対する認識っていうのはいかが。

河村: みなさん誤解しとったらいかんのだわ。熊本城のテレビをみて。これ。石垣ってもろいんだと思ってみえろと思えますね。熊本城は大天守の石垣は無傷なんですよ。12センチ下がっただけ。内側はちょっと痛んでます。これ新しいものは。

何でかいうとあれ 8本のコンクリートパイルが入ってます。

それで受けているんです。石垣の上に熊本場の天守は載ってないんです、実は。大天守は。大天守。名古屋城も同じように、もっとすごいコンクリートの塊が入って、そこに乗っ取る。コンクリートでもそうです。この木になりますとだいたい荷重が3分の1以下になりますので。ものすごく強いんです。

だから明治時代に石垣の上に載った、明治24年の濃尾震災のときでも名古屋城の石垣は無傷っていう、完全とはいえず、どっかから落ちたりしたかもわかりませんが、一般的には無傷です。だからこの北側のはらみ部分があって、あれは上から栗石が落ちてきとるんじゃないかとか言っった人もいますけど。

そういうのも丁寧に。調査をさせてしていただいて、やってくと。だから、加藤清正建設の社長が積んだ石垣はものすごく強いと。というのはね熊本場の天守やっぱり宇土櫓ってありますけど、あそこ無傷ですから。これ。建物。

記者: 名古屋城の石垣は強い地震にも耐えうる状況にあるということですか。

河村: まあ思いますよ。私は。思いますよ。熊本城と混同したらいかんですよ。熊本城は電話かけて聞いてみなきゃいかんね。あそこの大天守の石垣は内側を除いて12センチ下がっただけですから。

だからあの、あれは石垣の上に名古屋城が載っ取る思ったら大間違いで1万2-3000トンあるいわれてますね 載ってないんです。実は。これ。

名古屋城の石垣はパネルだ。現状は。濃尾地震の時、上が木造であって載っっても無

傷だった。

完全に無傷かどうかちょっと一般的に無傷だ。

それが今度またコンクリートではなしに木造になっていくわけですよ。

でも今でも、今でもすごい調査やってますよ。本当に。

石垣というのは僕は知見では、石が1個あったらこれがどんだけのアプローチで壊れるかどうかというのはわからないと言っていました。これ。

今のこの科学的知見では、何個石があるんだよ千個ぐらいあるのかちゃんと教えろいって聞いた。これ1個1個の圧力に耐えられる知見がないときにですね。

この集団になったら壊れるかどうかというのは、これはもう難しいですよこれ。科学的に。これ。やってもいいけど何百年もかかるんじゃないですかこれ。そんなことやりかけたら。

300年どころかもう早くやらないと、コンクリート補修せないかんようになるじゃないですか。地震で危ないから。

という話でございます。コンクリート補修すると木造は見えませんよ。30億、当時30億ですけど、今いくらかしらんけど。だいたいコンクリートで50年、平均50年ですから。いろいろメンテナンスすると100年くらい持つという説はありますけれども、中性化防止だとかね、いろいろやると、だで多分皆さんおっしゃられるのは熊本のあれと誤解されとるんですわ。

石垣の崩壊。聞いてくればいいがね、熊本城に聞いたってみやあ、崩壊したのは、ほとんど明治時代に積んだやつ。ほとんど。加藤清正が積んだのではない。

ゼロとは言えんけどどっかあるっていつてましたけど。違うんですよ。

記者:市長 先ほど解体後の現天守の一部をなんかとっておくというお話がありましたけど、それでどっかの部分だけ切り取って取っておくというお話

河村:という方法もあるし、と、それからまあご異議ある方からそういうものでやるいうでもあるしと、まだ決まっとらんと思ったがなこれ、検討中ですわ。予算だけはついております。

予算いくらだったかこれ?覚えておらん。予算は付いております。

記者:もしその現天守の一部をとっておくとすると、どこに置いておくんですか

河村:それもちょっとようわからん。

それは金シャチ横町の横もありますし、あれも広げられますし、能楽堂の南も土地が空いておるし。能楽堂の南側。

記者:一番上のところですか。

河村:僕がそれ言っておいた話しです。やっぱりあそこから双眼鏡で眺めた思い出があるの

で、ああいうところちょっと残したらどうかなど。はよ決めないかん。切り取るとき切り取り方が  
あるんで。

記者:あとすいません、解体の予算は現時点では新年度当初予算案に入ってくるんですか。  
それともまだ未定

河村:いやありますよ。

記者:入ってくる 9 億円でしたっけ

河村:まああんまり予算はまた改めて言うで黙っといってくれって言われとるけど、皆さんも知っ  
ておられると思いますけど。必要なお金なので。

司会:よろしいでしょうか。

河村:まあとにかく、これまで丁寧にやっところはないんです。

本当に。だからどっかから他に証明して下さいよ。他のお城で、名古屋城より丁寧にやっところ。  
ありませんよこれ。

石垣の専門家に聞いてますから。すごいですよって名古屋のやっところは。

そんだけ丁寧な上にも丁寧に。石垣部会の皆さんにもやってきたし。

それから、文化庁にもやってきた。

あとは民意を昭和 23 年からの民意を実現させてもらわなこれ。日本の。